

子どもの実態から考える自立活動の指導 ～子どもの実態にあった指導・支援を目指して～

- 1 日時 平成28年9月6日（火）
- 2 会場 鳥取県立皆生養護学校
- 3 講師 関西国際大学教授 中尾繁樹氏

特別支援教育に幅広く携わられている中尾繁樹先生に來校いただき、授業に関するアドバイスと講義をしていただいた。他校からも5名の参加があり、充実した会となった。

授業参観 中学部

安定した姿勢での歩行を獲得するための指導について見ていただいた。介助を受けながらの歩行では腰が後方に引けた姿勢になりやすい生徒であったが、生徒が現在持っている力を引き出す支援の仕方を教えていただいた。床からの立ち上がりや立位姿勢の保持の時に、支援の量を減らして取り組ませることで、自分でバランスを取ろうとする姿が見られた。指導者の身体支援の仕方が変わることで、よりよい身体の使い方を自分で獲得しようとする過程を実際に見ることができた。安定した歩行を獲得するために、足を踏ん張って姿勢を保持することの大切さについても、具体的な活動をふまえて教えていただいた。

授業参観 小学部

複数の來校者があったためか、普段と異なる雰囲気戸惑う姿から学習がスタートした。学習の内容を理解しているが気持ちが揺れ、スムーズに課題に取り組みにくい子どもとの関わり方を実際に見せていただくことができた。子どもの発する言葉や姿から学習への気持ちを汲み取り、自発的に課題へ向かわせていく中尾先生の誘いかけを通して、気持ちを切り替え笑顔で課題に取り組むことができた。最終的に学習の目標を達成することが大切であり、達成までの過程はその日の子どもの様子に合わせて取り組めばよいことをあらためて感じる事ができた。今回は現存する呼吸や筋力などの身体機能を維持する学習を見ていただき、楽しい雰囲気の中で達成感をもてるような学習設定の大切さについても知る事ができた。

授業参観 中学部

指導者の肘の支持や手つなぎの支持を受けながらの歩行の指導の中で、歩行と将来の生活をつなげ、高等部卒業までの目標は何かを具体的に考えることの必要性について教えていただいた。具体的な活動内容として、目的の場所まで歩くことができるようになるために、校内の廊下に椅子を置いて休憩場所を設け、そこまで歩くことを提案していただいた。現在は、生徒自身はその場にしゃがむことで休憩をしているが、より一緒に歩く相手により合わせられるように、また休憩の後に歩行へ向かいやすいようにするための学習設定について知る事ができた。

授業参観 小学部

自分の身体の部位を意識して動かすことの大さを教えていただいた。授業の始めは、筋緊張が強く意識して動かそうとすると力が入りすぎたり、各部位が分離せず同時に動いてしまったりしがちだったが、使わせたい部位を意識させる活動をした後は、座位や四つ這いなどの姿勢の取り方に少しずつ変化が見られるようになった。また部位の動かし方を教わり、左右を分離させて使う活動の中で、自発的にできる姿が見られるようになった。集中して時間いっぱい取り組むために、楽しく遊びながらできる活動を取り入れることの大さも知る事ができた。

授業参観 高等部

足裏を床面につき、目的のものまで支持を受けながらの歩行につながる指導を見ていただいた。始めに学習に向かいにくい様子が見られたので、マットを身体の周りに軽く巻いて圧刺激を受け、気持ちを安定した状態にしてからスタートした。気持ちが落ちついてくると動き続けていた身体が止まり、指導者が考える「使ってほしい身体の部位」を意識しやすくなった。ただ、安定しすぎると気持ちが内側に向いてしまうので、生徒の様子を見ながら、活動の中に刺激や変化を取り入れることの必要性を聞くことができた。

講義 「こころの手あて からだの手あて」

○ちょっとした意識や見方を変えるだけで、全く違った視点で子どもや自分の心・身体に気づくことができる。では、どうしたら気づけるかを考える。

○「どうしたら緊張をほぐせるか。」「どうすれば姿勢を保持したり姿勢を修正したりできるか」「どうしたら楽しく体に向き合えるのか」

↓こころほぐし、体づくり

- ・いろいろと考える。
- ・How to ばかり求めているはだめ。
- ・「三人寄れば文殊の知恵」。複数の教員で違う視点で、子どもの状態像を作り上げる。
- ・子どもへの合理的配慮事項を把握して指導にあたっているか。
- ・間違った運動を覚えさせていないか。

○「授業は教師と子どもの関係づくり」

- ・子どもが安心 ⇒ 教育的配慮 ⇒ 実態把握 ⇒ どんな方法？
- ・教育的意図を持ったかわり⇒目標設定と獲得、改善、克服の時期は？
⇒見通しを持つ
- ・子どもが輝く活動 ⇒ 共感できる関係
- ・発達支援 ⇒ 教材準備「何を、いつ、どこで、どのような方法で」
⇒ 視点をどこへ持っていか
- ・「一つの方法で子どもを変えようと思ったら大間違い」 ⇒ 5年後ぐらいの目標設定をして積み上げていくこと。
- ・子どもの苦しみ(しんどさ)や喜びを共感しながら指導していくこと。上から目線で見ていないか？
- ・講義型の授業は定着しにくい。(せいぜい10%程度か)
⇒ 教えるということは、子どもの状態を100%近く理解できていなければ無理。
子どもにいかに共感しながら授業を進めるかということが重要。
特別支援学校の教員というプロ意識(専門性)を有すること。

○姿勢と運動とこころ

- ・よい姿勢とは？ チェックしてみよう！
- ・乳児期に見られる反射の消失
- ・立ち上がるための発達パターンを理解して指導に当たること。そうしないと、子どもたちの合理的配慮に近づいていかない。